

◆研修会特集◆

図書室広報

久高千秋

Key Words：図書室広報、日赤図書室協議会

I. はじめに

当院は、これまで専任の図書室担当はおらず、総務課庶務が図書係、医局秘書が相互貸借 (ILL) を担当し、図書委員長が医局雑誌の管理を多忙な業務の中、担当していました。

平成22年 NPO 法人医療の質に関する研究会より図書、室内装飾、運営マニュアル、事務システムの寄贈・支援を受け患者図書室開設を機に、現在は司書が医学図書室と患者図書室を担当しています。

そこで、これまで築き上げられてきた図書業務を引き継ぎ、より利用者に益することができるかが私の最初の課題となりました。

私自身、広報とは漠然と一方的なお知らせとイメージしていましたが、利用者の現状、要望を知ることによってこれまでと異なった広報の形が見えてきました。

II. 医学図書室 広報の対象とは

当院は職種により医学図書室利用に関する特徴がありました。

医師は、医局に隣接する図書室の存在を

KUDAKA Chiaki

沖縄赤十字病院 図書室

rc-tosho@okinawa-rch.jp

知っています。しかし、図書室のサービス内容については知っている人と知らない人がいます。

また、コメディカルは、図書室の存在自体を知らない人も多く、広報を行う上で利用対象を分けて考える必要がありました。

その上で図書室を利用する人、さらに利用してもらうためにどうすればよいか。対象別に広報戦略をたてることにしました (表1)。

表1 広報の対象とは

図書室利用の有無	存在認識の有無	職種	サービス内容の認識の有無	広報戦略
図書室を利用する人	図書室の存在を知っている	医師	図書室サービスの内容を知っている	さらに利用してもらうための工夫
図書室を利用しない人	図書室の存在を知っている	コメディカル	図書室サービスの内容を知らない	図書室を知ってもらう工夫
	図書室の存在を知らない			

これまでの視点とは異なる広報戦略をたてることで、広報の道筋が見えてきました。

III. 医学図書室 広報活動

医学図書室では職員への利用促進のため、まず基本となる利用案内を作成し、職種を問わず多くの方が利用できるように考え室内の展示を工夫しました。

また、他の日赤図書室を参考に、当院の HP

に日本赤十字社医学図書館のポータルサイトをリンク付けしました。

4月の新人看護師、研修医のオリエンテーションでは、看護教育担当者にどのようなことが求められるかを事前に調査し、最低限必要なことを話しました。僅かな時間ではありますが、担当の顔を知ってもらえることや問い合わせに対しての反応を知ることは担当としても有意義でした(表2)。

表2 広報活動

印刷物の作成・配布	利用案内 掲示物・お知らせ 図書室だより しおり作成
ホームページで掲載	図書室ホームページ (日赤医学図書館のポータルサイトをリンク)
説明の機会 (利用者教育)	オリエンテーション 他職種の勉強会にてお知らせ

時々、『担当が一人だと大変だねえ』と声をかけられますが、所属部署や職員に助けてもらい感謝しています。

また、図書室業務に関する疑問や悩みは、協議会の掲示板・メールを通じて解決しています。年に一度の研修時にも直接お話すことで情報交換ができ助かっています。

地域のネットワーク沖縄メディカルライブラリー研究会の研修も大変役立っており、横



図1 所属団体

のつながりの重要性を感じています(図1)。

日々ささいな事で悩むこともありますが、解決の糸口を探し、また、当院の状況等をふまえた工夫が必要だと感じました。

IV. 患者図書室 広報

開設から4年目に入り、充実した医療情報図書が目の前にあるにも関わらず、私はこの図書を活かさきれているのだろうか。多くの人に手にとってもらいたい。と自問自答しながら日々過ごし、「図書室があることを知ってもらうこと、そうすれば必要なときに活用することができる。次の段階として、実際に本を手にとってもらうために、利用者の気持ちになって考えること。」を目標に広報は最も重要だと考え下記の広報活動を行いました(表3)。

表3 広報活動

利用者に対して	職員に対して
図書の紹介	直接案内
掲示物 待合室の電子パネル	イントラネット
イベント	院内広報誌
近隣の公共施設へ利用案内の配付	オリエンテーション

当院の患者図書室の特徴として廊下側面はガラス貼りになっており、室内の様子がわかるため利用しやすくなっています。

そのガラス面を利用して、お薦め本の表紙のコピーの掲示、地方紙の健康コラムの掲示・コラムにちなんだ図書の紹介をしています(図2)。

移動の途中に気軽に見ることができ、掲示しているこの本ありますか?と室内に入ってくる利用者もいます。



図2 患者図書室 廊下側面

室内では、ディスプレイにも気を配り表紙を見せPOPに方言を取り入れ親しみやすくなるように工夫をして紹介しています(図3)。



図3 図書POP

外来待合室に掲示するポスターひとつをとっても、高齢者にも見やすいようにできるだけ大きな文字に変更し、利用者の立場に立つことを外来看護師長から教わり、できるだけわかりやすくターゲットを絞った内容にしました。

図書室だけの広報活動には限界がありますが、院内の活動に目をむけると、糖尿病教室があり活動に触発され仲間に入れてもらいました。

糖尿病教室では、講演会の会場として図書室を提供し、図書やインターネット等図書室の利用案内の時間を組んでもらいました(図4)。その成果として糖尿病関連の本に興味を持ってくれた方、糖尿病教室をきっかけに図書室利用をされる方もいました。講演会後の調理実習にも参加させてもらい、直接患者さんからお話がきけたこと。また、スタッフとのつながりもでき、糖尿病関連のパンフレットを持ってきてくれたり情報をもらえることは嬉しいことでした。

院内はプロ集団の集まりであるので、連携できるとさらに広報の場は広がると思います。



図4 糖尿病教室

V. 今後の課題

医学図書室はひきつづき広報の対象を意識した広報活動を行いたいと思います。

地域の課題として、沖縄は、以前は長寿県と言われていましたが、現在では都道府県別平均寿命は下がっています。

また県民の20～69歳の2人に1人がメタボと言われています。

そこで、患者図書室の健康への架け橋としての役割と予防の重要性を痛感しており、地

域の状況に応じた広報活動も行っていきたい
と思います。

少しずつ進めてきた広報活動ですが、今後
も利用者の視点を大事にし、ニーズを知るこ
とに努めつなげていきたいと思っています。

参考文献

- 1) 田中均著：図書館を変える広報力—Web
サイトを活用した情報発信実践マニユア
ル。東京；日外アソシエーツ株式会社；
2012.
- 2) 日本赤十字社広報企画室。日本赤十字社
広報マニュアル；2009.